

6. シンポジウム開催報告

前章までの検討を受けて、成果の発信の場として、秋田県羽後町、広島県三次市の2カ所でシンポジウムを実施した。

それぞれのシンポジウムの概要については次の通りである。

6.1. 町内・集落福祉全国ミニサミット in 湯沢雄勝

(1) 開催概要

本シンポジウムは、特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター主催のシンポジウムに農林水産省が共催する形で、シンポジウム中「第2部」を本事業の活動報告の場として開催した。

開催日

2014年12月6日(土)、7日(日)

場所(シンポジウム会場)

羽後町文化交流施設「美里音」(みりおん) 秋田県羽後町貝沢字拾三本塚111-1
0183-62-2098

定員

350名程度

述べ参加者数

約70名

対象

自治会・町内会など地域組織のリーダー、民生児童委員や福祉委員、各種ボランティア、NPO、高齢者・障がい者・児童福祉関係職員、商工業者、農協・生協・社協、自治体関係者、平成26年度住み慣れた地域で暮らし続けるための「共生型支え合い」立ち上げ支援講座受講者、ほか、関心のある方

主催

主催：特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター

共催：農林水産省

後援：厚生労働省、秋田県、湯沢市、羽後町、東成瀬村、秋田県社会福祉協議会、湯沢市社会福祉協議会、羽後町社会福祉協議会、東成瀬村社会福祉協議会

(2) プログラム

■1日目(12月6日(土)) 全体会	
11:30~12:00	受付
12:00~12:20	開会(あいさつ)
12:20~13:00	基調報告 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 内閣参事官 高橋 和久氏
13:00~14:30	<p>【第1部 活動報告&ディスカッション】 「湯沢・雄勝の地域支え合い活動にみる見守り・声かけの居場所づくり」</p> <p>*活動報告*</p> <p>報告者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバーパワークラブ(湯沢市) 事務局 黒田恵美子氏 ・にこにこクラブ(羽後町) 代表 石垣 和子氏 ・なるせゆいっこの会(東成瀬村) 会長 鈴木 春一氏 ・秋田県南NPOセンター(横手市) 共助社会づくり担当 八嶋 英樹氏 ・狙半内共助運営体 会長 奥山 良治氏 サポーター ・秋田県社会福祉協議会 常務理事 佐々木 繁氏 ・東北福祉大学 総合福祉学部 教授 高橋 誠一氏 <p>コーディネーター 仙台白百合女子大学 人間学部 教授 大坂 純 氏</p>
14:50~16:20	<p>【第2部 活動報告&ディスカッション】(本事業担当部分)</p> <p>「地域の活性と支え合いの実現に向けた「食・農」の可能性」</p> <p>*活動報告*</p> <p>報告者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大館山田集落会(秋田県大館市) 副会長 赤坂 実 氏 ・NPO法人オーガニック・ライフ・コラボレーション 代表理事 福本 裕子氏 <p>*ディスカッション</p> <p>討論参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産省 食料産業局 食品小売サービス課 外食産業室長 山口 靖 氏 ・厚生労働省 社会・援護局 総務課 課長補佐 佐藤 博 氏 <p>コーディネーター NPO法人地域福祉研究室 pipi 理事長 渡邊 洋一氏</p>
16:20~17:20	<p>【まとめ パネルディスカッション】</p> <p>パネラー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯沢市社会福祉協議会 会長 菅 義雄氏 ・秋田県企画振興部 活力ある集落づくり支援室 室長 佐藤 廣道氏 ・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局 内閣参事官 高橋 和久氏 ・農林水産省 食料産業局 食品小売サービス課 外食産業室長 山口 靖氏 ・厚生労働省 社会・援護局 総務課 課長補佐 佐藤 博氏 ・NPO法人地域福祉研究室 pipi 理事長 渡邊 洋一氏 <p>コーディネーター ・神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 藤井 博志氏</p>
17:20~17:30	閉会
18:00~20:00	交流会(市内別会場)
■2日目(12月7日(日)) 現地見学・懇談ツアー	
09:00~12:00	「地域支え合い活動の現場を訪ね、地元実践者と語ろう」 ほっとする会(09:00~10:30) とうふの会(11:00~12:00)

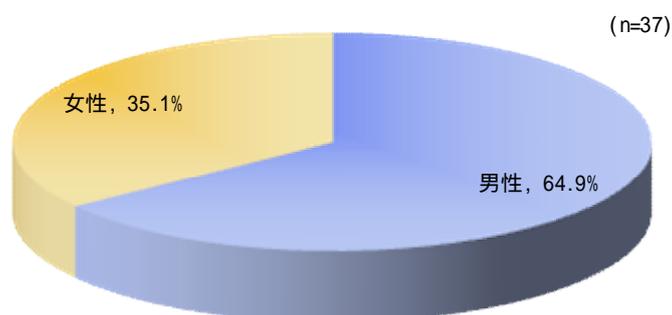
(3) アンケート集計結果

シンポジウム参加者に対してアンケートを実施し、食と農と福祉が連携した取組に対する理解の深まり等について集計を行った。回答者数は37名であった。

性別

男性の割合が64.9%、女性の割合が35.1%となっている。

図表 6-1 参加者の性別

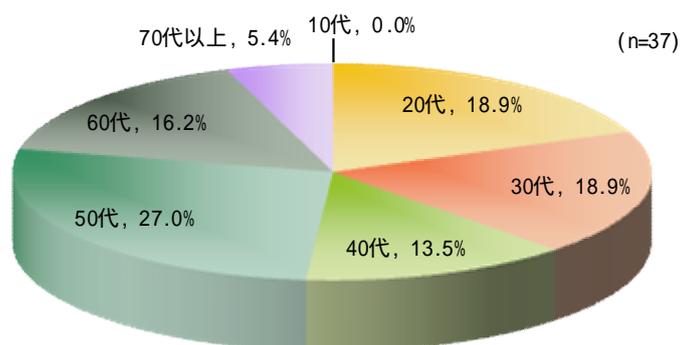


注釈) 無回答は除いて集計している

年齢

参加者の年齢は、「50代」の割合が最も高く27.0%となっている。次いで、20代、30代が18.9%となっている。

図表 6-2 参加者の年齢

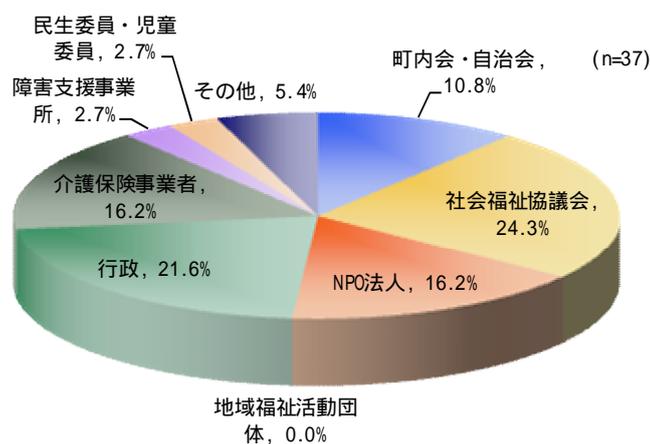


注釈) 無回答は除いて集計している

所属

「社会福祉協議会」の割合が最も高く 24.3%となっている。次いで、「行政(21.6%)」、「NPO法人(16.2%)」、「介護保険事業者(16.2%)」となっている。

図表 6-3 参加者の所属

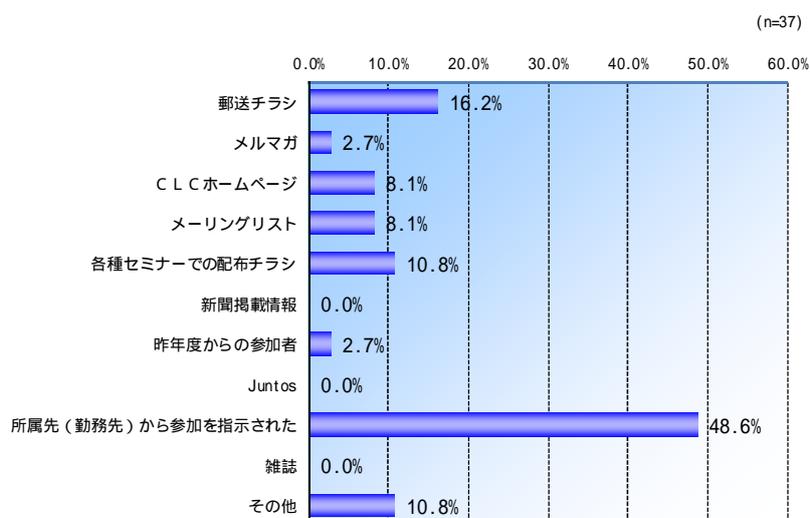


注釈) 無回答は除いて集計している

シンポジウムをどのような方法で知ったか

「所属先(勤務先)から参加を指示された」の割合が最も高く 48.6%となっている。次いで、「郵送チラシ(16.2%)」、「各種セミナーでの配布チラシ(10.8%)」、「その他(10.8%)」となっている。

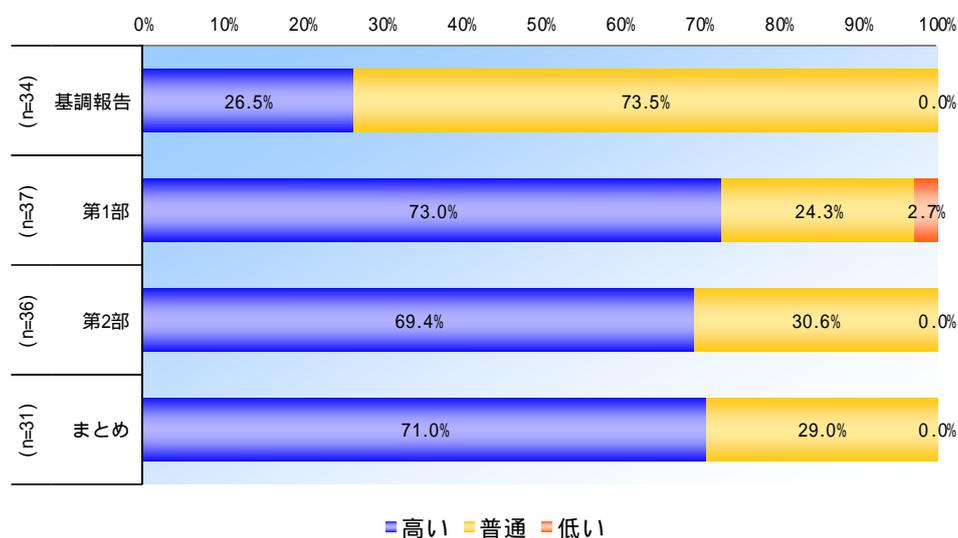
図表 6-4 シンポジウムをどのような方法で知ったか



各プログラムの分かりやすさ

第2部の分かりやすさについては、69.4%の参加者が「高い」と回答している。

図表 6-5 各プログラムの分かりやすさ

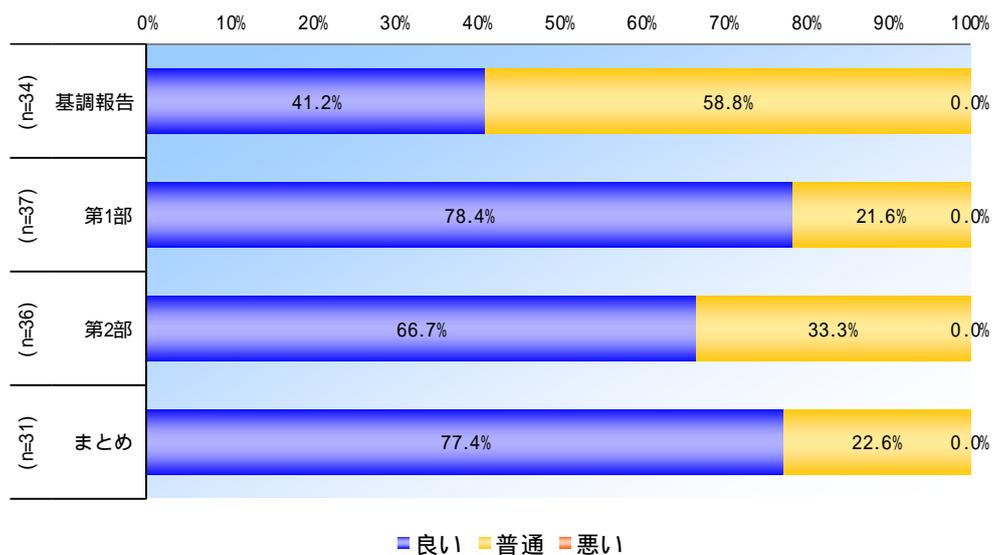


注釈) 無回答は除いて集計している

各プログラムの内容

第2部の内容については、66.7%の参加者が「良い」と回答している。

図表 6-6 各プログラムの内容



注釈) 無回答は除いて集計している

プログラムに対する感想

図表 6-7 プログラムに対する感想

< 基調報告 >

- ・ 県内の人口に関する様々なデータで、県の現状を再確認できる
- ・ 高齢化社会の現状、原因、対策についてデータを使い解りやすく説明していただけたので理解できました。地域で活動する際の説得材料として活用したいと思います
- ・ 現在の地方の現状は良く伝わりました。課題はわかったのですが、具体的にどう進めていくのか、結果が求められてくると思う
- ・ 基本データは各種課題、施策を考えるには必要で資料作成ポイントに参考となりました
- ・ 人口の東京集中、生産者人口の減少に腹立たしさを感じながら聴いた。地方にも人口の流入増やしと流出を止める施策を加速すべき。国防、税収、国力に危機。テレビ等で家族団らんの映像をいっぱい出して欲しい。イギリスではその様だ
- ・ パワーポイントのデータがあってわかりやすい部分もありましたが、地域創生の具体的な内容をもう少し聞きたかった
- ・ 地元で働きたい若者や大都市からUターンしたい方は多くいます。国で湯沢雄勝に働く場を作ってくださいれば人口流出しません。戦略はわかりませんが、現実に暮らしが良くなるようお願いします
- ・ 今後具体的な国の取り組み内容が決められていくと思いますが、できるだけわかりやすく広報してほしい

< 第1部 >

- ・ 地域の特徴を活かした取り組みを知ることができ興味深かった。他地区との交流のきっかけにもなると感じた
- ・ 課題解決のため、社協、行政がどう手助けしてくれたか。
- ・ 地域と福祉を埋めるサービス、無償より有償でもより良いサービス、持続可能な仕組み作りが求められていることが良くわかりました。地域で除雪支援の仕組みを考え、立ち上げている最中なので色々参考にさせていただきます
- ・ 身近な場所にいながら、このような様々な活動が行われている事を知らずにいたので、今日の報告はとても良かったです。更に高齢化となる秋田では、このような活動の場が認知症の予防にもつながり人とのつながりも切れずに地域で過ごせるという事は本当にすばらしいと思います
- ・ このような地域の活動がもっと増えていけば、住民主体の町作りがもっと濃いものになってくると思う
- ・ どんどん輪が広がり、笑顔がいっぱいになっていく様子がわかりやすく説明されていて、もっとお話を聞いてみたかったです
- ・ 様々なかたちで地域の皆さんがお互いに関わりあっている状況に感動しました。いろんな形で地域づくりに活かせると思います
- ・ みんなの地域は歴史性を感じる。パワーがあり、団結があると感じました。我々の町内も少しづつ、無理なくやりたいと思います
- ・ 地域住民が自主的な活動をすることで、地域が元気になること。すべての自治会が取り組めるようにしてみたいと思うディスカッションでした
- ・ どの事例発表も地域の方々の見守りを大切に考えている方々で民生委員としては本当に安心を任せていける活動ばかりでした
- ・ 各国体の方々がいきいきと活動されている様子が、報告を通じて伝わってきました
- ・ 「敷居の低い組織作り」や「無理をさせない」といった地域コミュニティづくりに重要なキーワードを頂き、大変参考になった
- ・ 積極的な活動されている事例が学べてよかった。これを本当に衰退していつている(その可能性がある)地域に紹介できればいいと感じています

<第2部>

- ・ 里山の特色を福祉につなげる例をわかりやすい形で知ることができた
- ・ アグリセラピーという言葉に触れたことがなかったので新たな視点を得ることができました
- ・ 食、農、福祉にこれほど深い関わりがあるということを初めて知れて良かった
- ・ 生きていく上で一番大事は食と、それを支える農、そして福祉の連携と言う発想がすばらしいと思いました
- ・ 地域にもともとある「ヒト、もの、情報」を再度見直す事で可能性が広がると感じた
- ・ 「食と農」から違う視点から見ることができ大変良かったです
- ・ 幅広い活動や国の取り組み等（方向性等）が分かり、今後が楽しみです。是非、遣いやすい制度を創設して欲しいものです
- ・ 山田 実践的で良かった。持っている財産を増やす。アグリセラピー 社会人のストレス解消など重要なことが良くわかりました
- ・ 赤坂さんに人の発見こそ集落の行き方だとよくわかった。佐藤さんのお話がとても良かった
- ・ 田舎で自分たちができることをやっていかないといけない。田舎だからこそ農と福祉をつなげて、地域で頑張っていかなないといけないと思う
- ・ 事例を聞かせてもらって、私たちの町でもやっていけることがあるように思った。今ある資源を活かすことの大切さを学んだ
- ・ スペシャリストの皆さまは、担当専門としてお話があると思いますが、地域住民はこれが福祉、これが農、食と考えていないと思います。日々に生活が一生懸命です。幸せな生活が安心して送れるように、地域を作って生きたいと思います
- ・ とても参考になる活動報告でした。集落人口を増加させるなどと言う使命感ではなく、今自分たちは生きがいを持って暮らすことに追求する意見を感じました
- ・ 地域活動に「経済活動」や「セラピー」という付加価値をつけることで、活動の活性化を図り位置づけの明確化を図ることができるというヒントをいただきました
- ・ 高齢者の持っている技術の継承は私共は実践してとても興味深く赤坂さんのお話を聞くことができました。機会があればまた、聴講したい
- ・ 渡邊先生の提案する「食、農」福祉推進の連携イメージ図と「社会起業」の時代というテーマが、とても勉強になった
- ・ 社協職員ですが、視野が狭くなっていることに気づかされた気がしました

<まとめ（パネルディスカッション）>

- ・ 良いお話でした。これからは、より一層地に足のついた事業の展開となることを願っております
- ・ 地域を縦割りではなく地域としていかに活性化させるかを改めて検討しなければならない時代になったことを感じる
- ・ 実際に地域の現場、政府の考えが良くわかるディスカッションだった
- ・ 佐藤博氏の話は地域事情をとらえた課題、仕組み、課題、取り組みととても分かりやすく今後の事業への取り組みにとっても参考になりました
- ・ 良かったと思います。将来への方向が見えていたように思う。いい社会への切口がいろいろあり勉強になった。（秋田も広いのか県庁で考えていることと、各集落は離れているのでは？）
- ・ 元気村支援室の佐藤室長のお話もあり、大変勉強になった。佐藤博さんがおっしゃったように、「暮らしの存続」をテーマに持続可能性があると感じた
- ・ それぞれの役割を引き出すことが、福祉の役割。地域づくりが結果的に社会福祉になる。これが良くわかりました
- ・ 行政は我々の生命を守ってくれる、税金を使ってくれると思います。雇用は人にたよるものとおっしゃられたが、この湯沢で自給自足だけでは困窮するばかりです。空学校、空家を福祉で活用するにも、行政の力がなければ動けない地域です。どうしたらよいか、教えていただきたいです。地域の多様性は良くわかります。根深い問題がまだまだあります

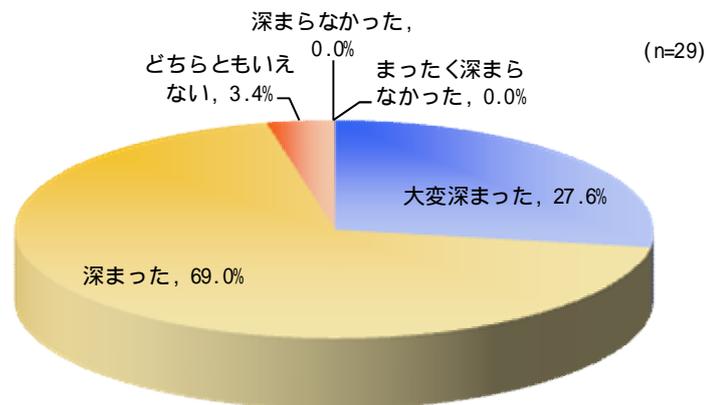
- ・ 社協の立場で話していただいたようですが少々難しかったです。先生方の励ましの言葉が活動していく上での原動力につながったと思います。ありがとうございました

注釈) 一部抜粋

「食と農と福祉の連携のあり方」に対する理解の深まり

「深まった」の割合が最も高く 69.0%となっている。次いで、「大変深まった(27.6%)」となっている。

図表 6-8 「食と農と福祉の連携のあり方」に対する理解の深まり



注釈) 無回答は除いて集計している

「食と農と福祉の連携」というテーマに関連し、今後取り上げてほしい内容・課題

図表 6-9 今後取り上げてほしい内容・課題

- ・ 地域の農協の話が出てこない。受け入れる側の組織作りから始めるのはなかなか大変
- ・ 福祉のあり方、現代にあう社会を国が県が市がどの方向へ進んでいくことが解かる課題が欲しい
- ・ 理念は大いにわかった。どのように事業化できるか。利回りに向けたストラテジーを考える必要がある
- ・ 地域創生との関係性はどうなっているのか具体的に聴きたい
- ・ 実践されている団体の実例をもっと紹介してほしい
- ・ 自立できている実践を学びたいと思います。「食と農と福祉」の連携が、今地域づくりのブームのように思いますが、失敗しない地域実践をどうしたらできるか興味深い

6.2. 地域における福祉の実現に向けた「食・農」の可能性

(1) 開催概要

本シンポジウムは、農林水産省が主催、広島県三次市、庄原市共催により開催された。

開催日	2014年12月19日(金)
場所(シンポジウム会場)	みよしまちづくりセンター「ペペラホール」 広島県三次市十日市西六丁目10-45
定員	200名程度
述べ参加者数	約140名
対象	自治会・町内会、NPO関係者、各種ボランティア、農業協同組合、生活協同組合、社会福祉協議会、商工業者、農林水産業関係者(農業生産法人等)、福祉関係者、自治体関係者 等
主催	主催：農林水産省 後援：三次市、庄原市

(2) プログラム

■第 部 現地視察ツアー	
10:30	現地集合(社会福祉法人優輝福祉会・コージーガーデン)
10:30~11:30	現場視察とディスカッション
11:30~12:30	コージーガーデンにてランチ
■第 部 現地視察ツアー	
12:30~13:00	受付
13:00~13:05	開会 農林水産省 食料産業局 食品小売サービス課 外食産業室長 山口 靖氏
13:05~13:30	基調報告「里山の福祉を進めるための食と農林水産業の役割」 NPO 法人地域福祉研究室 pipi 理事長 渡邊 洋一氏
13:30~14:10	【第1部 活動報告】 報告者 ・農村交流施設「森の巣箱」 施設長 大崎 登氏 ・備北湖域生活活性化協議会 理事長 熊原 保氏
14:20~15:30	【第2部 総括討論】 「地域における福祉の実現に向けた食・農の可能性」 討論参加者 ・島根大学教育学部 教授 作野 広和氏 ・農村交流施設「森の巣箱」 施設長 大崎 登氏 ・備北湖域生活活性化協議会 理事長 熊原 保氏 ・農林水産省 食料産業局 食品小売サービス課 外食産業室長 山口 靖氏 ・厚生労働省 社会・援護局 総務課 課長補佐 佐藤 博氏 コーディネーター NPO 法人地域福祉研究室 pipi 理事長 渡邊 洋一氏
15:30	閉会 厚生労働省 社会・援護局 総務課 課長補佐 佐藤 博氏

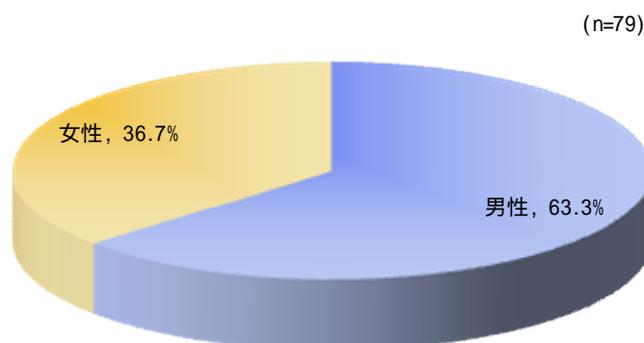
(3) アンケート集計結果

シンポジウム参加者に対してアンケートを実施し、食と農と福祉が連携した取組に対する理解の深まり等について集計を行った。回答者数は82名であった。

性別

男性の割合が63.3%、女性の割合が36.7%となっている。

図表 6-10 参加者の性別

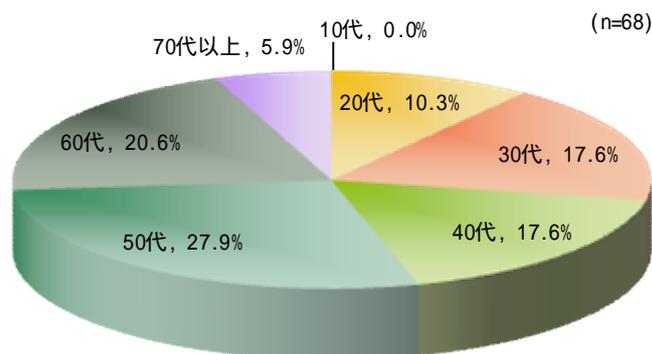


注釈) 無回答は除いて集計している

年齢

参加者の年齢は、「50代」の割合が最も高く27.9%となっている。次いで、60代が20.6%、30代、40代が17.6%となっている。

図表 6-11 参加者の年齢

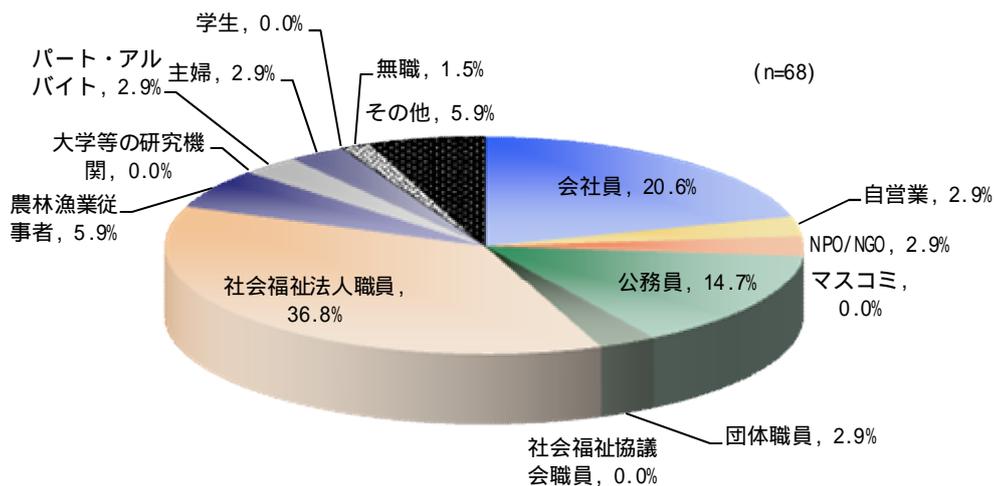


注釈) 無回答は除いて集計している

職業・所属

「社会福祉法人職員」の割合が最も高く 36.8%となっている。次いで、「会社員(20.6%)」、「公務員(14.7%)」となっている。

図表 6-12 参加者の職業・所属

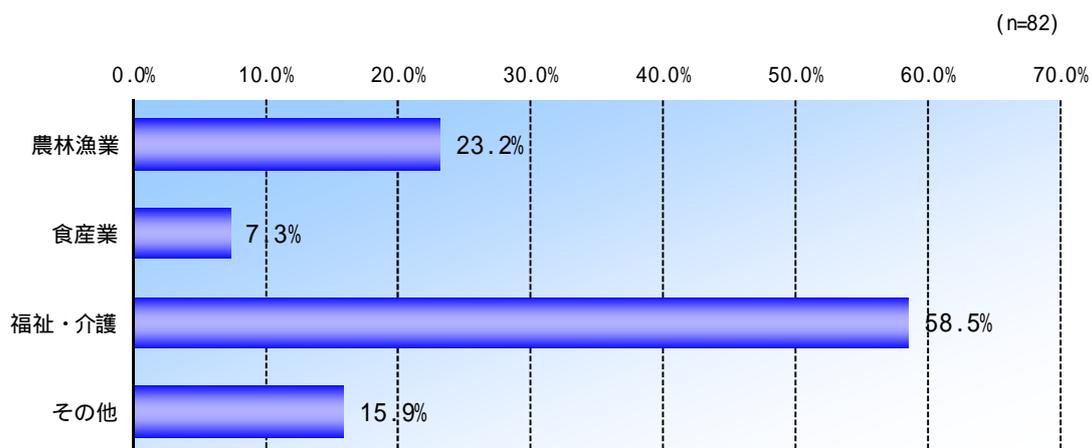


注釈) 無回答は除いて集計している

取組分野

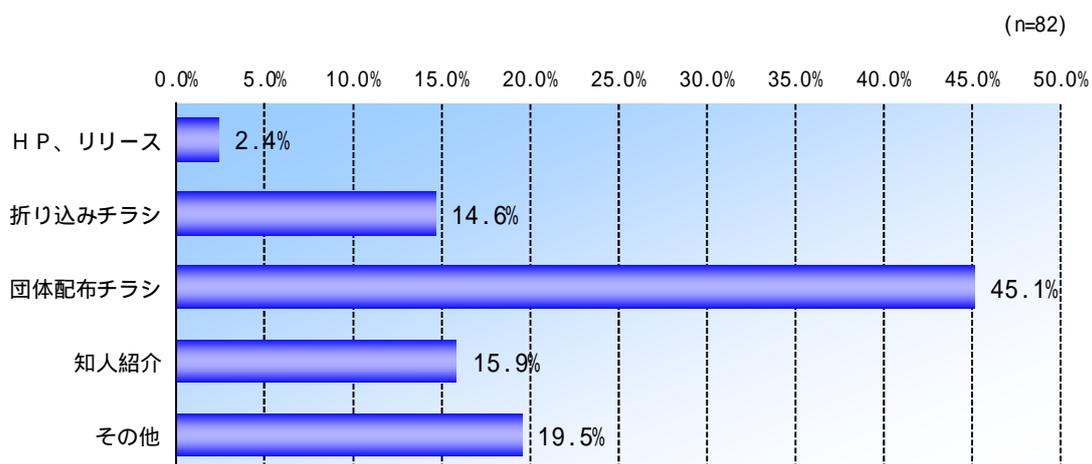
「福祉・介護」の割合が最も高く 58.5%となっている。次いで、「農林漁業(23.2%)」、「その他(15.9%)」となっている。

図表 6-13 参加者の取組分野



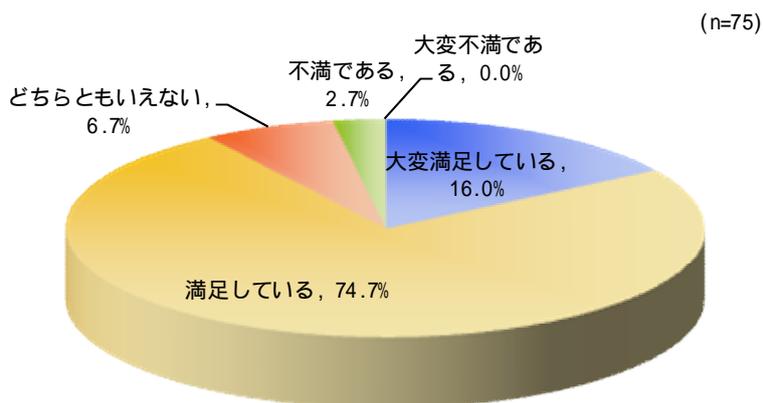
シンポジウムをどのような方法で知ったか
 「団体配布チラシ」の割合が最も高く 45.1%となっている。次いで、「その他(19.5%)」,
 「知人紹介(15.9%)」となっている。

図表 6-14 シンポジウムをどのような方法で知ったか



シンポジウムの総合的満足度
 「満足している」の割合が最も高く 74.7%となっている。次いで、「大変満足している
 (16.0%)」となっている。

図表 6-15 シンポジウムの総合的満足度



注釈) 無回答は除いて集計している

図表 6-16 総合的満足度の理由

< 大変満足・満足 >

- ・ 地方再生のヒントがわかった
- ・ 集落材料について縦割りを廃止しトータルとして評価する取り組みは評価できる。全体としてはデータが少ない感じで、例えば「働く高齢者は健康」であるというバックデータ等（周りの働く高齢者は に健康ですが）これがないと事業化も難しい
- ・ 雪の中、山の中に 130 人位？の人が集まった事。みんな何かができるのでは？と思っているあかしだと思います
- ・ 福祉の考え方のもう一つプラスしていくことについて考えさせられました
- ・ 内容が山間地域の課題に対して心豊かになり元気が出るものであった。庄原に帰って 1 年余り雪に埋もれて悶々としている時「里山ぐらし」にこれで良かったと思える内容でした
- ・ 食、農、福祉という言葉はよく耳にするが、いまひとつ、つながり関係がよくわからなかったが、理解を深めるきっかけになると思う
- ・ 今後どうあるべきかを考えている時にすばらしいタイムリーな内容に大変満足しています
- ・ 少し前半をゆっくりやってもらいたかった
- ・ 農水省、厚労省の話がきけてわかりやすかった
- ・ 具体例を上げての発表がとても興味をもてた
- ・ 食と農にどのように福祉を関係させているのか、今後関係させるのか、具体的に聞くことができた。里山資本主義の実際の活用の仕方のアイデアにつなげたい
- ・ 食農に以前より興味を持つようになった
- ・ 具体的な実践例を聞くことができ、厚労省、農水省から取り組みのきっかけ必要性が聞くことができた
- ・ 幅広い分野の方々の話が聞けて良かったです
- ・ 行政の縦割りでは、解決できない、大きな問題提起である
- ・ 「農」の力、そして「食」の力が地域の宝として、とらえ直すことができた
- ・ 討論でレジメに記入されていない内容、質問に対する答えなど聞いて、いろんな人たちがいろんな事を考えている事がわかった

< どちらともいえない・不満 >

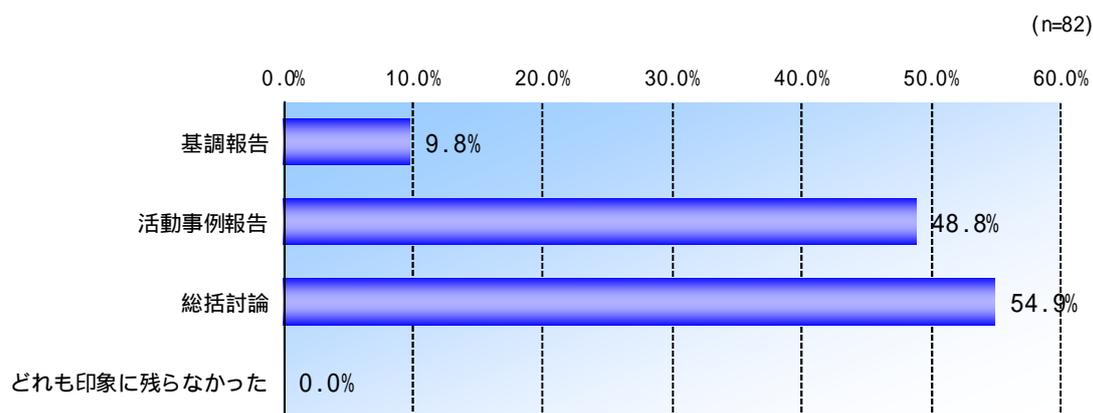
- ・ 現状での取り組みとしては有意義ではあるが肝心なのは継続性。次世代で現状のシステムが担えるかは疑問
- ・ 内容の濃さに比し、時間が足りなかった
- ・ 地域の事考える人が少ない
- ・ シンポジウムといっても行き先を決める話ではなくさわり程度の話なことがわかった
- ・ 「食・農」の可能性について、より分かりやすい内容が必要では
- ・ 農水が農業が「いやし」とか厚労省が集落が無くならないとかスタートの視点がおかしい。森の巣箱や里山も補助金でスタートしている。都市と農村のとらえ方が安易

注釈) 一部抜粋

特に印象に残ったプログラム

「総括討論」の割合が最も高く 54.9%となっている。次いで、「活動事例報告 (48.8%)」、「基調報告 (9.8%)」となっている。

図表 6-17 特に印象に残ったプログラム



図表 6-18 特に印象に残ったプログラムの理由

< 基調報告 >

- ・ 子供民生委員の発祥、その事にまつわる取り組み
- ・ 福祉の歴史が分かった事
- ・ 具体的な地域の話聞いて良かった
- ・ 目指す方向性、現在の活動内容について理解できた

< 活動事例報告 >

- ・ 各地域ならではの考え方がある事例が聞いた事
- ・ 森の巣箱では農の取り組みはどのような事を行っておられるのか。集落には農地があると思いますか？知産地消的な取り組みをされているのでしょうか。取り組み報告が聞いたかった
- ・ 何かができるのではないかと。ヒントになることを教えられた
- ・ 地域力、集落の力が大切である事、タイミングが大切
- ・ 2つの活動報告の中で、特に高知県の事例が自分の中でとても印象的であった。不便な点問題点を把握しあるものをそのまま活用している事。不便な点を利用している様、興味深い内容がたくさんあった
- ・ 具体的な地域の話聞いて良かった-
- ・ 目指す方向性、現在の活動内容について理解できた
- ・ 活性化するにはどうしていくかリーダーが必要
- ・ 森の巣箱の取り組み、自分達の地域を自分達で出資し取り組みも決めて行い事は、すごいことだと感じた。皆国っていても、なかなか意見がまとまらなかったり反対する人をどう説得したのか興味が沸いた
- ・ 森の巣箱の話聞き、自分が住んでいる地域も、あのように活性化させたいと感じました
- ・ 各セクションの方々の内容は素晴らしいことだと思います。食、農、福祉をどのように進けいさせるかが課題だと思います。法改正等
- ・ 四国の山の中での活動が、我々が住んでいる地域にも活かせるのではないかと感じた

< 総括討論 >

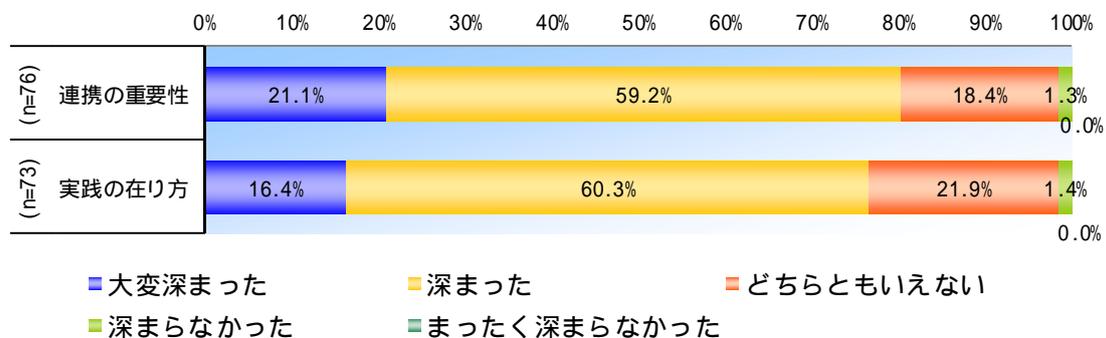
- ・ 今まで農水省、厚労省の方のお話を聞く機会がなかったと思いますので知らないことも多く、良かったです
- ・ 国の方向性が少し聞けた事がよかった
- ・ どれもよかった（実践者、行政、学者と多岐にわたる視点での討論で）
- ・ 将来の人口推移と費用負担について
- ・ それぞれ違う立場での討論また、この場でなくては聞けない事があり大変良かったです
- ・ 都会の病理について“過疎”の集落のしくみが必要となっている
- ・ 様々な所属の方々の討論は色々な意見、考え方等聞けて良かった
- ・ 社会保障費内訳、世帯構成、生涯未確率、フリーターニートの状況等が良くわかった
- ・ 自分達が地域でどうすれば良いか少しわかった
- ・ 生々しくて良い討論だった。住民が議論の機会を作ったのが良いと思った
- ・ それぞれの立場からの意見と、それに対しての相互の思いがしっかりと伝わってきた
- ・ 人間の知恵より、自然が教えてくれる、立場をのりこえる人間の成す技だと思う
- ・ 福祉の現場に身を置いているが、世の中の流れや福祉が変わるときなのだという事を改めて全体を通し考えさせられた

注釈) 一部抜粋

「食と農と福祉の連携のあり方」に対する理解の深まり

「大変深まった」と「深まった」の割合の合計に着目すると、「連携の重要性」は 80.3%、「実践の在り方」は 76.7%となっている。

図表 6-19 「食と農と福祉の連携のあり方」に対する理解の深まり



注釈) 無回答は除いて集計している

図表 6-20 「食と農と福祉の連携のあり方」に対する理解の深まりの理由

<p><連携の重要性：大変深まった・深まった></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域づくりこそ大切だということ ・ 連携、協同は絶対 ・ 具体的な事例が挙げられた事 ・ 何となくイメージ出来るような内容だったと思います ・ 地域づくりに参考にさせていただく ・ 今後とも、高齢化過疎化は進む中でさらに連携の重要性は高まると思います ・ 具体例、データなどをふまえて理解につながった ・ 理論、内容は理解できた ・ 地元でも何か活かしていくことによって変化が起こす事ができるのではないかと感じた ・ 今まで、わからなかったことが理解できた ・ 福祉という視点だけでなく生活、経済、社会を連動させた社会が必要 ・ 集落の重要性、役割が理解でき、集落の良い所を生かす為に連携が必要 ・ 人が一生を終える上で総合的に係わり合う重要なポイント ・ 農業と福祉と労働が重要なカギをにぎっているのではないかと思う ・ これからも、この分野からできる事、地域でできる事を模索したい ・ 現在の集落の問題へのアプローチにすべての事が係わっている事 <p><連携の重要性：どちらともいえない・深まらなかった></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状を前提としたベストな方法としては成功例として理解したが、その地域の将来設計にはある程度の人口集積と各世代の継続可能な生活ベースが必須 ・ 理解はできるが障害点が多く地区として対応できる事が無いように思われる ・ 長期にわたって地区で歩いて来た「ただ農業」として従事者として子供将来を考えないで生活してきた事が原因だと思う。今後、この立ち直り時間は数十年必要であり地区が維持できないのでは？ ・ 今まであまり考えた事がなかったので ・ 今後に生かせる機会を度々つくって欲しい ・ もう少し詳しい活動内容を聞きたかった <p><実践のあり方：大変深まった・深まった></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ばらばらでなく、色々な所、場所が連携して事を起こす（興す）事が大切。実際にやっていることを国が応援してほしい ・ 小さな集落の中で小さな交流から協力し話し合っていてやっていく。人と人が喜びあえる事が大切 ・ 農業のみではなく林業をも含めて考えたい ・ これからは、食も農も福祉などが連携していくことによって、改めて感じる事ができるのではないか ・ 障害者、高齢者の働く場、地域の働き手として共生していくことができる食、農には人をひきつける、つなぎ止める力がある ・ いかに継続していくか、定着するか、認知されるか、興味深い ・ 関連機関や組織の重要性が実践するにあたって大切である <p><実践のあり方：ふどちらともいえない・深まらなかった></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の活性化について、説明はありましたが農との連携が見えなかった ・ 先立って地区の選別（育てる地区と廃止する地区）差別化が必要 ・ 事業の将来への継続時間と継続者の育て方を実践しているか？ ・ 行政がみえない（地元の関係者）

注釈）一部抜粋

今後「食と農と福祉の連携」を進めていくにあたり重要と思われること

図表 6-21 今後「食と農と福祉の連携」を進めていくにあたり重要と思われること

- ・ 地域活性化するためには、人の活性が必要である
- ・ 田舎に他地域の人が入ってくるにあたり、新しい人が地域になじみやすくなるために、地域で気をつける事を考えてほしい。新しい人もなじみたくても、なじめない田舎の風習があるのでは(プライバシー面)
- ・ 集落材料を掘り下げて考案することではないかと思う。まだ漠然としている。集落営農一つでも、水管、結、講、という風に農業と自治が融合している部分がある。丁寧に分析できないかと思う
- ・ 地域との関わりを深めていく、具体化していく、踏み込むことも大切と思う。農水省がもっと力を入れるべき
- ・ 実践をしている人たちの応援(サポート)してほしい。やっている事が間違っていないと思えるように。都会(まち)で働くだけでない生き方もo.kという事を知らせてほしい。実際に見てもらふ機会を作る。色々な所を見る、感じる
- ・ 農村は高齢者ばかりで閉鎖的な面があります。今回のようなシンポなどで外部の風(他地域や国レベルの行政など)をいれて、他地域へも発信する事はとても重要だと思います
- ・ 人の事ではなく、今自分の出来る事からやってみる事。ひとりでは不安ばかり、やっぱり仲間と役割分担して出来る事からやってみる。やり続ける事。若者がいなくても資金がなくても出来ることから出来るだけする
- ・ 現状に対するベストプラクティスと将来設計。単に域内での巡環では継続性は難では? 農も食も福祉も、その地域の魅力あるライフスタイルの一部として発信できることが重要
- ・ 生活基盤の安定
- ・ 集落の原点使う
- ・ 人と人とのつながりが重要で、それに伴う活動がなされる事、そして経済が成り立つ努力が必要
- ・ 地域を振り返る、見る(観る)、知る
- ・ コーディネーターの育成(本物のリーダー)
- ・ マネー循環の仕組み、永続性確保"
- ・ 人と人とのつながり、共同
- ・ 1、後継者の住みやすい地域(地区との関わり方の明確化と休日の確保) 教育には、競争が必要(少人数では出来ない)。2、年収(子育てが出来る額700万位)
- ・ 事業として成立しない地区は統合・廃止すべき(有効な重点補助が必要)"
- ・ 渡邊先生の「人間は人と人の間の営み」というのが重要だと思う。住民同士の対話が必須ではないでしょうか
- ・ 問題意識を持つ
- ・ 本当の意味での協力体制、ネットワークの構築
- ・ 行政が法人、個人と共に入りバランサーとして関わり、形づくりをしていくこと。今あるものの大切さを再確認し、1ターンリターン者と融合しながら進めていって欲しい
- ・ 連携の重要性を一人でも多くの人に認知してもらう事
- ・ 人(同じ志を持っていける人の存在が重要と思います)
- ・ ナラティブに共感し、共に働ける人
- ・ 福祉と地域、食や農について知識の深い人、共通の分野に深い人"
- ・ 地域連携
- ・ 地域内の声をしっかり聞く
- ・ 若者主体"
- ・ 作野教授のまとめにあったように順序、きっかけづくり大事と思います
- ・ 食、農、福祉は人の営み、生活そのものである。縦割りで連携するという考えでなく「まるごと」住み良くすることが、食、農、福祉に広がっていくことなのかという理解ができた

- ・ 人と人のつながりについて、I Uターンの人から、活発な所を出していかなければならないと思いました。チャレンジの場があるのかなと思っています
- ・ 集落に住むことに自身を持ち、周囲関心を持つ
- ・ 自分達の地域の強みをしること
- ・ 地域包括、自治と言え、全てが重要だと思う
- ・ 大儀、志
- ・ 食業を業として成功させる方法"
- ・ 地域の宝として、自然とともに生きていた先人たちの暮らしの知恵（農、食、地域の伝統文化など）をみつめ直し、次の世代へつなぐ実践、体験メニューの取り組み
- ・ 地域間の交流、行政の関係、政治の関係、職員の向上（行政関係者）
- ・ 障害者の係わり方をどうするかというのが重要だと思う
- ・ 人々の暮らしの理解と働きたいと思える職場作り。地域活動のしやすい勤務体制など
- ・ 実行力
- ・ 行政と地域住民の連携が必要
- ・ 国の自給率をあげる政策
- ・ 結局のところ、人の思いと行動につけるのだと思った。志は大きく、行動は素早く行いたい
- ・ 福祉のポンプ役に期待。しかし上手く循環する（各地で）までの財源は大丈夫？
- ・ キーマンのつながり
- ・ チームワークが大切だと思います
- ・ どの先生も言われていた原点に帰るという事、法律や国を変えるには少し時間が必要と思われるが個による可能な取り組みを継いでいくことが、まず半歩第一歩が必要なのだと考えさせられました

注釈) 一部抜粋

「食と農と福祉の連携」に関して、今後話を聞いてみたいテーマ

図表 6-22 「と農と福祉の連携」に関して今後話を聞いてみたいテーマ

- ・ フィリピンには農業と自治体が一つになった FARM という組織単位があるらしい。参考にならないかと思う。尚、 FARM というと住所の事にもなるらしい。日本に寄付文化が根付かないのはキリスト教、イスラム教などの影響が少ないから。日本では稼いだお金は自分の努力と才能であって、貧しいのはその人に努力が無いからと考えがち。金持ちに社会的責任がない国
- ・ 国の大きな流れ、難しいけれどとても勉強になりました。目先の事も大事だけれど大きく何に向かっているのかが分かる事は大切です。また聞きたいです。ありがとうございました
- ・ 補助金以外の地域外マネーの流入を、地域特性を生かして図った実例等。食と農が当該地域での文化、ライフスタイルの発信として成功している例
- ・ 村活の役割と分担、参加できる姿勢づくりをどう浸透させるか
- ・ 地域に集落の底力を顕在化した色々な事例をマネー、労働の循環をデータに基づいた情報に触れたい
- ・ 1、現況と未来を想定した、環境の集約、整備
- ・ 経費が（維持費）必要な地区の廃止、統合。農地も含めて
- ・ 国、県、市等の地区への補助金等の支給計画"
- ・ 地域ならではの事例も良いが、都市部ならではの事例、都市部での良さ、悪さ等聞いてみたい
- ・ 行政が今後どのような施策を考えているのか聞いてみたい
- ・ 学生など若い人の意見を聞く機会
- ・ 取り組み例の具体的な事例（もっと詳しい内容）
- ・ 地域の成功面以外の難しい所とか失敗談を聞いてみたいです

- ・ 六次産業化の事業支援、事業活動等
- ・ 「農」の六次産業化から福祉との連携の実際にすすめている地域の取り組み
- ・ 行政職員の考え方等
- ・ 実践してどのように生活が変わったのかなどのお話が聞いてみたい。高齢者の方々や障害のある方
- ・ 有機農業の連携を深めるべき（消費者と）
- ・ 頑張れない集落、縮小する地域（過疎地）の農の維持、どうできるか？
- ・ 「村農と福祉の連携」

注釈) 一部抜粋

